

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／宮本 賢治

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①将来的に、教員として必要な専門的な知識や技能・技術が十分に身につけられるような授業内容とする。
②実習・実験、演習を多くして、学生が自分の頭で考えたり、実際に体験する機会を増やすことができるように工夫する。また、教員から学生への一方通行の講義にならないように、適宜、学生とディスカッションしながら授業を進めるように努める。
③授業で扱った知識や技能、技術が実際に身についたかどうかを筆記試験のみならず、実習・実験などの実技的な面も考慮して総合的に成績評価する。

2. 点検・評価

①将来的に、教員として必要な専門的な知識や技能・技術が十分に身につけられるような内容の授業を実践した。
②実習・実験、演習を多くして、学生が自分の頭で考えたり、実際に体験する機会を増やすことができるように工夫した。また、教員から学生への一方通行の講義にならないように、適宜、学生とディスカッションしながら授業を進めた。
③授業で扱った知識や技能、技術が実際に身についたかどうかを筆記試験のみならず、実習・実験などの実技的な面も考慮して総合的に成績評価した

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①前年度の授業評価結果を踏まえて、学生の理解や技能が授業の到達目標を達成できるように、授業の構成やテキスト、教材の工夫などの授業の改善を図る。
- ②修士論文や卒業論文等の指導に関して、授業実践を意識して学校教育現場で十分に活用でき得るような教材を開発し、質の高い論文を完成できるようにきめ細かく指導する。
- ③ゼミの学生を対象にして、教員採用試験に向けた指導を行う。

2. 点検・評価

- ①前年度の授業評価結果を踏まえて、学生の理解や技能が授業の到達目標を達成できるように、授業の構成やテキスト、教材の工夫などの授業の改善を図った。
- ②修士論文や卒業論文等の指導に関して、授業実践を意識して学校教育現場で十分に活用でき得るような教材を開発し、質の高い論文を完成できるようにきめ細かく指導した。
- ③ゼミの学生の教員採用試験の大学推薦(京都府、中学数学)に向けた指導を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①研究テーマの1つである負イオンビームの光学シミュレーションについては、外部の研究機関との間で共同研究を進めて、研究成果を学会で発表したり、学術論文誌へ投稿する。
- ②初等・中等におけるものづくりや理科の教育に関する教材開発等の研究を進めて、研究成果を学会で発表したり、学術論文誌へ投稿する。

2. 点検・評価

- ①負イオンビームの光学シミュレーションについては、慶応大や日本原子力研究開発機構等の外部研究機関と共同研究を進め、研究成果を下記の国際学会の・The 13 th International Conference on Ion Source, で発表したり、学術論文へ投稿し、掲載された(Journal of Applied Physics, 114, 103302-1 (2013).査読有)。
- ②初等・中等におけるものづくりや理科の教育に関する教材開発等の研究を進めて、研究成果を日本産業技術教育学会誌へ投稿し、掲載された(日本産業技術教育学会誌、第55巻、第4号 pp. 281-288、査読有)。また、学会発表については、日本産業技術教育学会第29回四国支部大会(愛媛大学、2013. 12. 8)にて発表した。
- ③電子顕微鏡観察のためのイオン液体を用いた前処理方法に関する研究については、研究成果を第4回イオン液体討論会(慶應義塾大学日吉キャンパス独立館、2013. 11. 21)にて学会発表するとともに、鳴門教育大学研究紀要第29巻へ論文投稿した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学部入試委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ①学部入試委員として、本学の運営に貢献した。
- ②知的財産室委員として、本学の運営に貢献した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①中学ロボットコンテスト大会等を通じて、附属中学校と積極的に教育・研究活動の交流を図る。
- ②教育支援講師・アドバイザー等事業に登録して積極的に参加する。
- ③教育・研究活動や親睦会等を通じて、コースに在籍している外国人留学生と積極的に国際交流を図る。

2. 点検・評価

- ①教育実践フィールド研究や中学ロボットコンテスト大会を通じて、附属中学校と積極的に教育・研究活動の交流を図った。
- ②教育支援講師・アドバイザー等事業に登録し、派遣先の中学校でアドバイザーを務めた(派遣回数: 1回)。
- ③教育・研究活動や親睦会等を通じて、コースに在籍している外国人留学生と積極的に国際交流を図った。
- ④四国産学官連携イノベーション共同推進機構の運営委員とアソシエイトを務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)